

ハウシャガメ (*Astrochelys radiata*) の国内導入の経緯

横浜市立野毛山動物園
飼育展示係 大滝侑介

(公社)日本動物園水族館協会では、2006 年よりハウシャガメの国内血統登録簿を作成し、個体情報の登録ならびに各種情報の収集、分析を行っている。この血統登録簿は毎年飼育園館に個体情報の変更、異動、繁殖状況などの調査を行い更新され、次年度の種管理計画書と共に飼育園館に共有されている。登録されている個体は JAZA 加盟園館（過去加盟していた園館含む）で飼育された個体を中心に登録されている。

2022 年(12 月末時点)で国内血統登録簿にて生存している個体はオス 65 頭、メス 59 頭、性別不明 92 頭、計 216 頭となる。すでに死亡している個体などを含むと 325 頭のハウシャガメが血統登録簿に記載されている。

JAZA 加盟園館に導入された個体は 218 頭で経緯としては CITES 違反の没収による二次収容 54 頭、種の保存法違反による緊急保護 126 頭、寄贈 25 頭、拾得物 10 頭、購入 1 頭、不明 2 頭となり国外の動物園から導入した個体はいない。CITES 違反の二次収容と警察摘発の緊急保護を合わせると 180 頭と全体の約 80%にのぼり、JAZA 加盟園館に導入した個体群のほとんどが密輸された可能性が高い個体ということがわかる。

繁殖については 2009 年より孵化が確認されており、2022 年末までに 8 施設で 107 頭孵化し 92 頭生存している。繁殖個体 107 頭のうち 15 頭はすでに死亡しており、すべて 5 歳齢までに死亡している。死亡の原因は様々だが若齢個体は環境適応能力が低く、わずかな環境変化にも敏感に反応し体調不良を示すこともあり飼育管理には注意が必要である。繁殖数は 2016 年から増加の傾向が見られたが 2020 年の 23 頭をピークに下降しているが、各園繁殖制限により孵化数を調整しているためと思われる。

JAZA 加盟園館の個体増加については、当初 CITES 違反による二次収容個体および警察押収による緊急保護が主だったが JAZA 加盟園館で繁殖が見られるようになってからは個体増加の割合の多くは繁殖子が占めるようになっている。